（1）　明治20年創刊　第37957号（第3種郵便物認可）　THE JOMO SHIMBUN　（日刊）

上毛新聞

発行所（〒371―8666）前橋市古市町1―50―21
上毛新聞社
電話 市外局番（027）
（編集）254―9933（広告）254―9944
（販売）254―3131（事業）254―9955
（印刷）254―9985（出版）254―9966
（システム）254―9936（発送）254―9984
（総務）254―9977（総合）254―9911

© 上毛新聞社 2000年

平成十二年
全国新酒鑑評会
入賞蔵
船尾瀧
フナオタキ
特約 群馬酒販 ☎027(231)9156

読者センター
☎ 027-254-9922
FAX 027-251-4334
Eメール houdou@jomo-news.co.jp
群馬のポータル http://www.raijin.com/

県議定数　桐生と伊勢崎が逆転

一票の格差広がる

碓氷は強制合区対象

各会派、検討委設け調整へ

2000年国勢調査速報

二〇〇〇年国勢調査で県は六日、今年十月一日現在の県人口と世帯数（速報値）を発表した。県人口は二百二万四千八百二十人となり、前回（一九九五年）調査より二万千二百八十人増加した。一方、県議の選挙区定数に直結する郡市別人口では、桐生市（定数四）と伊勢崎市（同三）が逆転したほか、碓氷郡区（同一）の人口が減少して隣接区との強制合区の条件を満たすなど、定数配分見直しの検討材料が浮上した。これを受け、県議会各派は定数配分などの本格的な検討に着手する意向。来年度をめどに議員定数等検討委員会を設置し、次期改選に向けた調整作業に入る。

（県内市町村別人口と世帯数一覧表は19面）

議員定数は五年に一度の国勢調査を基に定められ、県議全体の法定定数（六〇＝条例による実定数五七）に変動はなかった。その半面で、選挙区別の県議一人当たり人口から割り出される「一票の格差」は、最多の富岡市（四万九千三百四十六人）と最少の碓氷郡（一万七千二百三十一人）との差が二・八六倍に。前回国勢調査での二・七七倍からさらに広がった。

郡市別にみると、桐生市の人口を伊勢崎市が一万三百二十七人上回ったが、定数は桐生市が一多い逆転選挙区となり、見直しの対象に浮上した。また、県議一人当たり人口で、碓氷郡は県全体の県議一人当たり人口（三万五千五百二十三人）の半数を下回ったため、公職選挙法で隣接区との合区が義務づけられる。

ただ、桐生市については県議一人当たり人口で、複数選挙区の利根郡（定数二）や多野郡（同二）を上回っているため、見直しをめぐり伊勢崎市だけの増員、他選挙区との調整を含めさまざまな論議を呼びそう。また、逆転選挙区や合区は特別の事情がある場合、公選法で都道府県条例の判断を尊重する含みを持たせており、最終的には県議会各派の協議にゆだねられる。

県議会内では最大党派の自民が「検討委員会を設置して見直しを協議する」（星野已喜雄幹事長）としているのをはじめ、フォーラム、共産、公明の各派とも見直し協議の必要性を指摘。検討委員会を設置し、二〇〇三年春の次期改選に向けた条例改正の検討作業に着手する。一年程度の周知期間を踏まえ来年度中の決着を目指す見通し。

選挙区定数は一九九五年の前々回改選で富岡市を定数二から一に一減、佐波郡を同二から三に一増して以降、変更されていない。

2000年国勢調査速報に基づく県議選各選挙区の議員1人当たり人口

選挙区	定数	1人当たり人口	順位
前橋市	8	35,519	12
高崎市	7	34,269	14
桐生市	4	28,858	19
伊勢崎市	3	41,920	7
太田市	4	36,974	10
沼田市	1	46,344	5
館林市	2	39,684	9
渋川市	1	48,760	2
藤岡市	2	31,475	18
富岡市	1	49,346	1
安中市	1	47,668	4
勢多郡	3	34,192	16
群馬郡	2	40,573	8
北群馬郡	1	48,011	3
多野郡	2	25,082	21
甘楽郡	1	34,220	15
碓氷郡	1	17,231	23
吾妻郡	2	33,859	17
利根郡	2	25,983	20
佐波郡	3	35,392	13
新田郡	2	43,954	6
山田郡	1	22,192	22
邑楽郡	3	35,977	11
全県	57	35,523	―

※1人当たり人口は少数以下切り捨て。順位は多い順

1世帯3人割る

30年で最少の2万1280人増

国勢調査の県人口速報値では、人口の伸びが過去三十年間で最少の二万千二百八十人増（増加率一・一%）にとどまり、人口増の鈍化傾向が浮き彫りとなった。「少子化の影響に尽きる」（県統計課）とみられ、一世帯当たり人員は本県で初めて三人を割り込む二・九二人に減少した。

県人口の推移を振り返ると、一九六〇年調査当時、首都圏への就職などで三万五千七十三人減少した以外は、県内経済の発展とともに着々と増加してきた。これに対し、戦後の一世帯当たり人員は五〇年調査の五・四三人をピークに減少が続いている。今回調査で市町村別では伊香保町の二・二三人と川場村の四・四六人とで二倍の開きが出ている。

人口が最も増えた市町村は伊勢崎市の五千五百二十六人。増加率は、揚水式発電所建設の作業員移住に伴い上野村が四四・〇%（六百九十八人増）にはね上がった。逆に、減少数は桐生市の四千九百四十二人が最も多く、減少率は南牧村の一二・八%をはじめ万場町、中里村など計六町村が一〇%を超えた。

郡市間の人口構成比は市部六一・六%、郡部三八・四%となり、八五年調査以降、市部の比率がやや後退する傾向が続いている。

世紀をつなぐ　繭の記憶

第一部　夢　▶▶7

精神の遺産

うす明かりに二つの製糸工場の模型が浮かび上がる。高崎市岩鼻町、県立歴史博物館。常設展示室に明治期につくられた日本を代表する官営富岡製糸場と碓氷社が並んでいる。

富岡製糸は明治政府が日本で最初に建設した製糸工場であり、「富国強兵」の象徴。最新器械による重装備の巨大な工場は百分の一に縮小されているとはいえ、三㍍四方もある。その六年後に誕生した碓氷社は十分の一程度だ。「どっちの生産が大きかったと思いますか」。県立歴史博物館の松浦利隆さん（四三）に尋ねられた。

答えは碓氷社。当時、特筆されたのは本県の生糸生産の主流がずっと江戸時代からの伝統である座繰（ざぐ）りであったこと。それは、大きな工場をつくることなく、座繰りの農家をまとめあげ、品質の高い、大量の生糸の生産システムを完成させた碓氷社によるところが大きい。同じころ全国では器械製糸が座繰りを逆転し、生産を伸ばしていったが、器械製糸に負けない碓氷社のシステムのもとには県内にとどまらず、一府九県から農家が支部組合を作って集まった。

* * *

碓氷社は栄華を極めた。その往時をしのぶ建物が安中市原市に残っている。支部組合が広がり、社の新築が必要となったが、折あしく日露戦争の最中。「かかる大戦争時に…」といった批判の声が上がった。しかし、創業者の萩原鐐太郎は「社員を益し国家を益する　これより大かつ急なるはなかるべし」と一蹴。国家最高の輸出品を生産している碓氷社の発展こそが国家、国民の発展、との確固たる信念で強行したのである。

こうして建てられた本社事務所は幾星霜を経て、九一年、県重要文化財に指定された。だが、指定までの道のりは平坦ではなかった。

この建物を引き継いだグンサンは業績の低迷に苦しんでいた。国道18号に面した広い敷地の活用に活路を見出そうとしていた。しかし、計画が進むと、建物がネックとなった。その中心にいたのが前常務の庭野義智さん（六五）＝安中市磯部＝。「事務所には地域の農家とともに生きた先人の精神が集約されている。解体はできない」。しかし、契約を進めなければ「グンサンは存続できない」。眠れない日が続いた。

そんな事態が急変した。文化庁が「近代化遺産」調査を全国に先駆けて群馬に委託してきたのだ。担当したのが県教委文化財保護課で近現代を担当する松浦さん。幕末以降の建造物などを指す「近代化遺産」という言葉は、当時その概念もはっきりしていなかった。当惑しながら調査に入った松浦さんだが、碓氷社を調べれば調べるほど「残さねばならない」という気持ちが強まった。

近代建築の権威者を集めた調査委員会も「これを残さねば群馬は後世に面目がたたない」と声を上げた。松浦さんの上司、文化財保護課長の梅沢重昭さん（六五）は庭野さんをグンサンに訪ね「あの建物は『先祖の位はい』。絶対残すべきだ」と迫った。庭野さんも腹を決め、会社幹部を説得。急転、現在地保存は決まった。

* * *

敷地の東南角に移された旧碓氷社は、いま、産声を上げた地「東上磯部」の街並みを見おろしている。

木造かわらぶきの総二階建て、古い木造校舎のようだ。中に入ると、初冬の長い日差しが二階の大広間に差し込んでいた。百畳敷もある空間。「大勢の人間をのみこんだ往時のままに」という、保存に奔走した人たちの心が、ここに息づいている。安中市の郷土史研究家の淡路博和さん（六七）は言う。「こうしたものはすぐに飯のタネにはならない。でもね、心を膨らませてくれるんだよ」

「心を膨らませるんだよ」

繭を切りさなぎを取り出して雌雄を分ける。蚕種を製造する県是蚕種協同組合（前橋市岩神町）の鑑別業務の主役は女性たち

上毛スポーツ賞

第26回受賞者決まる

第26回「上毛スポーツ賞」（二〇〇〇年）受賞者は、選考の結果、次の通り決まりました。贈呈式は、12月8日（金）午後2時から上毛新聞社・上毛ホールで行います。

（23、26、27面に選考経過と受賞者の横顔を紹介）

【競技部門】

▼小・中学生の部
陸上　倉林和宏（高崎高南中）
水泳　渡辺梢（吉岡中）

▼高校生の部
空手道　山本和貴（前橋工業高）
陸上　浜名智弘（高崎工業高）
小菅亜由美（高崎女子高）
水泳　前橋育英高水泳部
片平真貴、岸美菜子
サッカー　県立前橋商業高校サッカー部

▼大学・一般の部
ソフトボール　シドニー五輪・ソフトボール　監督・宇津木妙子（日立高崎）選手・藤井由宮子（〃）宇津木麗華（〃）伊藤良恵（〃）松本直美（〃）小関しおり（〃）小林良美（〃）山路典子（太陽誘電）
野球　全伊勢崎硬建クラブ
アイスホッケー　群馬シールズ（伊香保町）
水泳　奈良恵里加（前橋市）
陸上　酒井かづみ（宮城村）
バスケットボール　塚本京子（新田町）
バレーボール　群馬銀行バレーボール部

▼特別賞
サッカー　山田耕介（前橋育英高教諭）
レスリング　川合達夫（板倉高教諭）
陸上　金沢イボンヌ（佐田建設）
体操　岩井則賢（大翔会）
サッカー　松田直樹（横浜Fマリノス）
自転車　稲村成浩（前橋市）
陸上　宮川仁（吉井町）

【スポーツ振興功労賞】
山岳　田中成幸（県山岳連盟副会長）

敬称略

協賛　三井海上火災保険(株)　東京海上火災保険(株)　日動火災海上保険(株)　日本火災海上保険(株)

上毛新聞社

きょうの紙面から

ジャックス主張認める

③④　商標「JACCS」をインターネットのドメイン名で勝手に使われたとして、ジャックスが使用差し止めなどを求めた訴訟の判決で、富山地裁はジャックスの主張を認めた。

- 自民税制改正作業大詰め（2面）
- 実名報道容認判決確定へ（3面）
- 論説　八ツ場ダム補償交渉（4面）
- 特集・大学入試マネー学（12〜14面）
- マフィアから麻薬密売依頼（21面）

県内の天気

数字は降水確率（左から午前・午後・夜）

北部
きょう　10｜0｜0　北西の風やや強くのち南東の風、晴れ。
あす　30　北日中南東の風、晴れ時々曇り。

南部
きょう　0｜0｜0　北西の風やや強くのち南東の風、晴れ。
あす　10　北日中南東の風、晴れ。

きょうの東京　0｜0｜0

週間予報　9（土）　10（日）　11（月）　12（火）　13（水）

予想気温（前橋）	きょう	あす
最低	−1度	2度
最高	11度	12度

きょうの月　月齢 11.2　月出 13:55　月入 1:41

住宅建設奨励金制度を2年延長

太田市

太田市は、市内での住宅新築や改築、建売住宅（マンション含む）購入に対して、市単独事業で行っている住宅建設等促進奨励金の給制度を、二〇〇二年度まで二年間延長することを決めた。

同制度は、消費税率が五%にアップした一九九七年四月以降、住宅建築の着工が落ち込んだため、地域経済への刺激策として九九年二月に導入。奨励金は建築、購入費用のおおむね二%で、建築工事の完了審査や所有権の保存登記後に同市金券で支給している。

県議会

きょうの一般質問

▽小林義康氏（自民、発言割当時間八〇分）「二十一世紀を迎えるにあたって」「二〇〇一年度当初予算について」など十項目▽塚越紀一氏（フォーラム、九二分）「地域コミュニティーを大切にした県政の推進について」「児童虐待防止法について」など八項目▽久保田順一郎氏（自民、七〇分）「『IT基本法』成立による本県の今後のIT化推進について」「県有林の利活用について」など九項目▽宇津野洋一氏（共産、七五分）「水源県群馬の地下水保全について」「農政の出先機関の統廃合について」など五項目

山春秋

自分のことは何でもできるという九十歳のおじいさんから便りを頂いた。そうして「よくもこんな小さな、しっかりした字が書けるもの」と、そのかくしゃくぶりに感じ入った▼寒さへの対処法として、こんな愉快なことを書いている。「当分はこたつ暮らしです」。行間に、老いてますます盛んな頑固さや温かな綿入れなどを着込み、日がな一日こたつで過ごすおじいさんの格好がほうふつとしてきて、何とも楽しい▼いよいよ寒さが身に染みる時季。できれば暖かいところで読書でもしていられれば、なんて思うが、おじいさんから「ばかを言うな。一生を働き詰めたおれだからいいんで、あんたはまだそんな身分じゃあないよ！」と一喝されそうだ▼今ごろになると、大陸の高気圧が日本の南方洋上に張り出し、東方洋上に低気圧が居座る、いわゆる西高東低の冬型の気圧配置が強まる。それによって生まれるのが寒く冷たい北西季節風で、本県など太平洋側は乾いた冬晴れ、日本海側は雪模様の日々が続くことになる▼生き物にとって冬はつらい。多くの変温動物は冬眠するし、外界の温度に関係なく一定の体温を保てる哺乳類や鳥類などの恒温動物もほとんどが働きを不活発にしたり、休眠状態に入る。だから人間だって冬の間動きが緩慢になるのは至極当たり前▼きょうは二十四節気の一つ、大雪。ただ、昔から「冬至冬なか冬はじめ」というように、本格的な寒さの到来は今月二十一日の冬至ころから。節気は十五日刻みで、小寒、大寒と続き、待望の立春を迎えるのは二月。「この冬をここに越すべき冬仕度」（風生）

大検　文部省認定：大学入学資格検定　高校卒業資格
【中卒者】【高校中退者】【定時通信制在籍者】
通信制高校 定時制高校　高卒サポートコース
在籍高校のレポート・テストをサポートします
●H12後期生　随時入学受付中●
個別進路相談会　〜12月16日(土)まで
■大検通学コース　■ビデオ通信コース
■大学受験コース　■短期留学コース
大検／大学受験オルタナティブスクール
D 第一高等学院 高崎校
高崎市連雀町76　高崎駅西口徒歩7分
案内書無料　TEL 027-310-2270
http://www.ds-plaza.co.jp

県内のお客様　限定企画
上州牛食べ放題プラス松茸会席プラン　1日10組限定　何と！　お一人様1泊2食付（サ込・税別）10,000円〜
2001年2月3・4日（3日スライド上映・4日写真教室・氷結の吹割の滝撮影会）
冬の写真教室　お一人様1泊3食付 諸経費含む（サ込・税別）15,000円　フォトスタンドプレゼント
草木染め体験プラン、陶芸・そば打ち・こんにゃく作り（有料）
詳細はお問い合わせください。
老神温泉　竹の宿　山楽荘　TEL（0278）56-2611(代)
http://www.sanrakusou.com

NIIJIMAGAKUEN WOMEN'S JUNIOR COLLEGE
新島学園女子短期大学
国際文化学科（募集人員300名）
●英語文化圏コース●中国語文化圏コース●フランス語文化圏コース
●日本文化コース●現代情報コース
専攻科（募集人員20名）国際文化専攻（文部省・学位授与機構認定）
■2001年度入試日程　短大（国際文化学科）

試験区分		出願期間	試験日	合格発表	選抜方法
推薦選抜（指定校、特別、一般）	[illegible]	12/1(金)〜12/18(月)	12/21(木)	12/24(日)	推薦書、調査書、面接
一般選抜（A方式/B方式）A方式：午前実施 B方式：午後実施	[illegible]	1/9(火)〜1/30(火)	2/3(土)	2/7(水)	A方式…調査書、小論文、面接 B方式…英語、中国語、フランス語、現代文より1科目選択、面接
	[illegible]	2/15(木)〜3/1(木)	3/7(水)	3/10(土)	
	[illegible]	3/5(月)〜3/19(月)	3/22(木)	3/23(金)	
特別選抜（帰国生、社会人、留学生）	[illegible]	1/9(火)〜1/30(火)	2/3(土)	2/7(水)	小論文、面接
	[illegible]	3/5(月)〜3/19(月)	3/22(木)	3/23(金)	

※特待生制度については下記までお問い合わせ下さい。
専攻科（国際文化専攻）

試験区分	出願期間	試験日	合格発表	選抜方法
2期	1/9(木)〜1/30(木)	2/3(土)	2/7(水)	小論文、面接、出願書類
3期	3/5(月)〜3/19(月)	3/22(木)	3/23(金)	

●問い合わせ先　新島学園女子短期大学　教務学生課入試係
〒370-0068 群馬県高崎市昭和町53　TEL027(326)1155（代）

冬のスペシャルプライス
なんと!!お一人様一泊朝食付（バイキング）　大人2名様より、限定50名様まで承ります。
5,500円　サービス料込・税金別
12月　10(日)・11(月)・12(火)・13(水)・14(木)・17(日)・18(月)・19(火)・20(水)・21(木)・24(日)
※ご夕食は別料金となります。　一品料理850円より　和定食2,000円より　和コース4,000円より
ファミリーバイキング
1泊2食付・大人　お一人様　※サービス料込 税金別
1月7(日)　10,000円
1月5(金)・6(土)　12,000円
12月30(土)　13,000円
1月3(水)・4(木)　15,000円
小学生70%／3歳以上未就学児50%　3名様より承ります
※すべての期間中、2歳以下のお客様が寝具や浴衣を使用する場合は、布団のみ3,000円（税金別）・浴衣800円（税金別）を申し受けます。
伊香保温泉　HOTEL 天坊
北群馬郡伊香保町396-20
0279-72-4489（ヨイヨヤク）
ホームページ http://www.tenbo.com
鈴木聖美
X'マス ディナーショー
2000年12月23日(祝)
お一人様25,000円 税金込
第1部　2:00PM 受付　5:00PM ディナータイム　6:15PM ショータイム
第2部　4:00PM 受付　7:00PM ディナータイム　8:15PM ショータイム
※お泊まりの方は、プラス5,500円（税金別）にてお受けいたします。

この印刷物の文章・写真等の著作権は上毛新聞社が保持しています。無断転載、複製及び頒布は禁止します。